

1. 実験の背景

- 中土佐町では平成29年7月に道の駅「なかとさ」がオープンし、新たな観光拠点となっている。しかし、平成30年度の夏季シーズンには西日本豪雨災害の影響もあり、利用者は対前年比で大幅減少となった。
- またインバウンド誘客においては、多言語版の案内などが十分に提供できておらず、道の駅の3つの役割のうちの「情報発信機能」と「地域の連携機能」をより強化する必要がある。加えて、町内のインバウンド向け観光資源の整理やインフラ整備などにおいても、外国人観光客を中土佐町へ受け入れる体制には不足がある。

2. 実験の目的

- クルーズ船寄港地観光のモデルケースとして、道の駅「なかとさ」及びその周辺地域において、外国人観光客のニーズに合った観光機能の充実と情報発信ができること。
- 道の駅を拠点とした観光周遊ルートを策定し、分かりやすく安全な道路等の機能強化、運用体制により、質の高いインバウンド観光受け入れを実現すること。

3. 検討内容

- クルーズ船寄港時に、クルーズ船スタッフを対象にモニターツアーを実施。アンケートから方向性と課題を抽出、整理。
- 町の中心観光資源である道の駅「なかとさ」、また大正町市場等の利用者数推移から課題の整理とインバウンド観光客の誘致に必要な道路等の機能、運用の整理。

上記2点を元に、来年度の実証実験の方向性を以下5項目において検討する。

- ① 中土佐町におけるインバウンド観光資源の抽出・整理
- ② 道の駅「なかとさ」の果たすべき役割の整理
- ③ 必要な道路等の機能強化、運用の検討
- ④ ショアエクスカージョンのあり方の検討
- ⑤ スキーム検討(船社、ランドオペレーターとの役割分担)



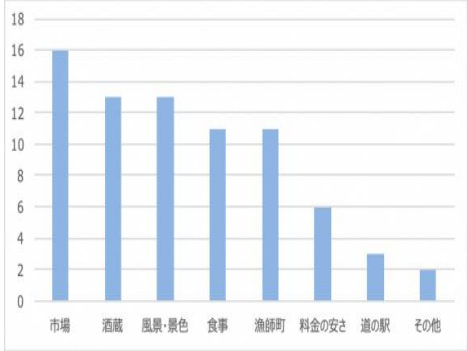
図 実験実施地域

4. 検討結果

- ・モニターツアーの所要時間は往復2時間の移動を含む6時間。
- ・クルーズ船の高知港滞在時間は平均約8.5時間となっており、無理のないスケジュールが組めると考えられる。
- ・また1船あたりの平均乗客数は2,076名で町へ継続誘致できた際の経済効果は非常に高い。
- ・アンケートでは、ツアー全般に関しては「期待以上」回答が91%。
- ・道の駅「なかとさ」や街中のサインについても80%台後半～90%台の高い満足度や、わかりやすいという結果となった。
- ・しかし魅力を感じたものや、印象に残った場所の回答では大正町市場や温泉／食事、酒蔵などが上位となり、道の駅「なかとさ」の回答は下位となった。
- ・今後道の駅「なかとさ」を拠点としてクルーズ船寄港地観光を実施するには課題の整理、また道の駅とその周辺道路等の機能強化が必要と考えられる。
- ・また、観光案内所に求める機能としては、公共WiFiや多言語対応、案内標識の統一など観光庁の調査でも上位にあがる課題と同様の結果となった。

何に魅力を感じツアーに参加したか

市場	16
酒蔵	13
風景・景色	13
食事	11
漁師町	11
料金の安さ	6
道の駅	3
その他	2



観光案内所にあると良いもの

公共wifi	15
案内標識の多言語化	12
案内標識の統一化	8
公共交通案内	7
観光地マップ	6
地震・津波時の避難案内	5
レンタサイクル	4
ガイド	4
歩行者安全対策	4
QRコードによる詳細な観光情報	3
その他	

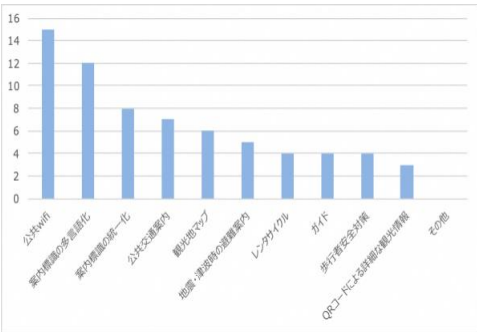


図 モニターツアーアンケート

5. FS調査より得られた課題

- (1) 観光拠点としての道の駅「なかとさ」
- ・観光案内所(ツアーデスク)の設置
 - ・外貨引き出し可能なATMの整備
 - ・町内観光施設との連携を強化

- (2) インバウンド対応
- ・インフラの整備(WiFi、情報発信の見直し、多言語表記、決済システム、翻訳ツール等)
- (3) 観光拠点間の安全確保
- ・遊歩道の整備等